

飯南

いいなん

議会報

第60号
令和2年1月20日

- 02 年頭のあいさつ 特別功労者表彰受賞
- 03 12月議会報告 可決された主な議案
議員提出議案 請願 一般会計補正予算
- 04 一般質問
- 10 決算審査報告 意見書の提出
- 11 討論 採決の結果
- 12 視察研修報告
- 14 常任委員会報告 議会活動報告
全員協議会の議題
- 16 明日を拓く



年頭の「ごあいさつ」

飯南町議会議長 早樋 徹雄



明けましておめでとうございます。町民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。また、議会活動にご理解とご協力を賜っておりますことに、厚くお礼を申し上げます。全国で「地方創生」が叫ばれ、多様な施策が打ち出されておりますが、特効薬はなかなかありません。しかし、この地域のすばらしい自然、文化、歴史、豊かな暮らしを守り、次の世代へ引継いでいかなくはなりません。過疎化、少子高齢化が進行する現実は大変厳しいものがありますが、住む人が暮らしやすい地域とするため、議員一同、その役割と責任を自覚し、町民の皆様のご期待にこたえるよう全力をつくしてまいりますので、一層のご支援ご協力をお願いいたします。

令和2年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される記念の年でもあります。本年が皆様にとりましてご健勝で多く、希望に満ちた年になりますようご祈念申し上げますご挨拶といたします。

令和元年

12月定例会を終えて

12月3日から13日までの11日間で開催

約半世紀にわたり、赤名地内で地域医療を支えていただいた和田医院が、12月末をもって閉院された。これまでのご貢献に敬意を表し、感謝申し上げます。これにともない、飯南病院や来島診療所を受診される方々の交通の利便性を図るためにデマンドバスを増便する。

また、定住施策の中で大きな役割を成す「定住促進賃貸住宅」を、上赤名瀬戸地内と頓原泉川団地内にそれぞれ二戸整備する。これまでに25戸を整備し、99人(うち子ども50人)が暮らしている。

総務厚生常任委員会は、定住、介護、環境について、教育経済常任委員会は農作物6次産業化について、視察研修に出向いた。

可決された主な議案

認定

平成30年度飯南町各会計歳入歳出決算認定

条例関係

飯南町みらい人材育成基金条例の制定など

7件

承認

令和元年度飯南町一般会計補正予算(第3号)

予算

令和元年度飯南町一般会計補正予算(第4号)

など12件

諸議案

雲南広域連合規約の一部を変更する規約に

ついて

議員提出議案

- ・飯南町議会議規則の一部を改正する規則
- ・種子条例の制定を求める意見書

請願

主要農作物種子法の復活等をもとめる請願

〔請願者〕

松江市芋町27

島根県農民運動連合会

会長 長谷川 敏郎

〔付託委員会〕教育経済常任委員会

〔審査結果〕 採 択

那須穂土輝さん 全国町村議会議長会 特別功労者表彰を受賞

那須穂土輝さん(八神)が、6年間の永きにわたって島根県町村議会議長会会長を務められた功績により、令和元年十二月十三日に開催された全国町村議会議長会創立70周年記念式典において、特別功労者表彰を受賞された。



〔令和元年度 一般会計補正予算〕

ふるさと応援寄付金への返礼品委託料3000万円の増額、ふるさと応援基金積立金 6000万円の増額、機構集積協力金交付事業905万円の増額など

1億581万円増額

会計名		補正予算額	予算総額
一般会計		1億581万円	93億2834万円
特別会計	国民健康保険事業	3万円	6億5812万円
	介護保険サービス事業	△1万円	3767万円
簡易水道事業会計		513万円	6億2011万円
下水道事業会計		347万円	5億4555万円
病院事業会計		127万円	12億6548万円

一般質問

12月定例会



内藤 眞一 議員

Q人口増につなげる福祉行政は

9月定例会で高齢層による人口増の質問をした。建物に金をかけても後に繋がらず、町民の理解は得られない。そこで、庭付きの空き家を活用し、のんびり過ごせる居場所づくりを集落と協力し作り上げる町づくりはどうか。

「日本一大しめ縄の町」が「日本一福祉・包括ケアの町」となるよう「飯南町福祉立町宣言」と銘打ち「都会から田舎へ」と高齢者を呼び込む。

A検討遅れている

町長 山崎 英樹

都市部からの高齢者受け入れを事業として、健康状態に応じたケア環境の整備と、定着を実現する仕組みづくりを、策定中の総合戦略に盛り込む作業を進めている。しかし、高齢者と若者のバランスの取れた人口構成が望まれており、検討は遅れている。総合戦略推進交付金も視野に入れ、できるだけ国・県の補助金を活用したい。



庭のある空き家

Qゲノミック評価 積極活用を

県は、先端技術を活用した「しまね和牛」緊急改良事業と称し、9月補正予算で778万円を計上した。ゲノミック評価(※1)を導入し、県内の若い雌牛400頭を評価し、超高性能雌牛を選抜する。

本町には13頭が配分された。従前の技術だと約30ヶ月を要したものが、ゲノミック評価だと3ヶ月で選別できる。町内には約200頭の該当牛があり、全頭評価が飼育農家の希望だ。1頭あたり2万2000円程度であり、早急に予算措置をすべきだ。

受精卵移植も進め、飼育農家全員が協力し、町産子牛のレベルを向上させ、価格の安定に繋げる必要がある。和牛改良組合など関係者とよく協議し、早急な取り組みを求める。

(※1)ゲノミック評価とは、牛の毛根からDNAを採取し、肉質や肉量に関する能力を評価する手法。

A機運高まれば支援

町長 山崎 英樹

農家の所得向上には有効な手段だと認識している。本町では従来から、優良牛保留を行っており、先進的な技術で成果が上がることを期待する。

これを進めるには、受精卵移植による標準化などをオール飯南町で進めるべきで、それは飯南町和牛改良組合が、取り組みへの機運を高めることが重要だ。

機運が高まれば、町はスピード感を持って必要な支援をする。



飯南町の和牛共進会

一般質問

12月定例会



高橋 英次 議員

Q医療機関への交通手段見直しを

赤名の和田医院閉院後は、飯南病院もしくは来島診療所での受診となり、公共交通機関等を利用し通院することになるが、住民の皆さんの一番の不安は、その不便さである。

和田医院の待合室で話を聞いたが、患者からは「直通便もないし、生活路線バスが運行されていなく」「アマンダバスを利用しても乗り継ぎが必要だ」という意見がある。

医療機関への交通手段の見直しを求める。



和田医院

A地域公共交通計画の見直しで

町長 山崎 英樹

公共交通は、住民生活を支える重要な生活基盤である。デマンドバスと生活路線バス乗り換えの不便さは、課題の一つとして認識している。

来年度からは、自動車免許を持たない方へ、タクシー助成制度導入を検討している。

医療機関への交通手段は、今後の地域公共交通計画見直しの中で、より良い交通体制を目指す。

Q出張診療所の開設を

和田医院で聞き取る中で、出張診療所の開設を求める声がたくさんあった。医療機関が無くなることは、小さな拠点の形成を壊すことになると危惧している。

出張診療所の開設要望も併せ、これからの赤名地区の医療体制への不安解消はどう行うのか。

A出張診療所は開設しない

町長 山崎 英樹

新たな医療機関の開設を望まれるのは、当然のことと受け止めている。

飯南病院では、総合医による医療体制の構築、地域包括医療ケアの推進に取り組み、現在町内外から評価されている。

今後、働き方改革への対応、人口減少や患者数の減少が想定され、病院事業の運営が課題だ。引き続き救急医療・入院機能の維持、充実を最優先とし、在宅医療の充実、オンライン診療などに取り組み、町全体の医療の確保に努める。

出張診療所は、現在開設している2ヶ所も検討が必要だ。赤名には出張診療所を開設せず、飯南病院・来島診療所で対応する。



運行中の町営バス

一般質問

12月定例会



景山 登美男 議員

Q 防災の準備をしっかりと

①いつ起こるか分からない災害に対して、住民の安全な避難などを確保するには、行政が行う「公助」だけでは難しく、自分の身は自分で守るといふ「自助」と、近所や地域の協力である「共助」の取り組みが重要になっている。
災害対策基本法では、自力で避難することが困難な人を

避難行動要支援者名簿に登録しておく、その情報を消防・警察・民生委員・社協・自治防災組織などに提供し、災害時の避難支援に活用することになっている。
一番確実な方法は、要支援者を支援する人をあらかじめ決めておく、避難行動要支援者名簿に支援者の名前を記入



避難訓練

しておくことであると思うがどうか。
②飯南町地域防災計画では避難場所と避難所が定められているが、避難場所は自治会や組単位で定められている。避難の途中に隣の自治会や組の避難場所がありながら、わざわざ遠い避難場所に行かなければならないとか、橋を渡らなければならぬところ、避難場所がある場合がある。
地域の区分にこだわらず、実態に即した避難場所の指定ができないか。

A 準備は大切

町長 山崎英樹



③先の台風により千葉県を中心に大規模な停電が発生したが、その際ラジオ放送が大変有効であることが実証された。
このたび、エフエム山陰と山陰放送から、島根・鳥取両県の自治体と協定を締結したうえで、災害時におけるラジオ放送を利用した情報の提供に取り組む意向があるとの報道があった。町内でこの2局の放送を受信するのはかなり困難だ。
この2局の放送を聴くことができるよう、強い要望活動をするべきではないか。

①非常時において速やかに避難行動に移るためには、情報提供者のみで対応することには限界がある。あらかじめ支援者を決めておくことは大変有効であり、名簿の作成を進めたい。
②飯南町地域防災計画の見直しの中で、自然条件を考慮するとともに、地域の実情と地元の方々の意見もいただきながら、実態に即した避難場所を指定したい。
③災害時に停電となった場合に、ラジオ放送は大変有効であるので、エフエム山陰と山陰放送の良好な受信について研究してみたい。

一般質問

12月定例会



伊藤 好晴 議員

Q 冬期間の通学を安全に

頓原小・中学校通学路のロードヒーティング廃止に、保護者から不安の声が聞こえる。ロードヒーター廃止ありきで進んできたのではないかとという疑問も寄せられ、それに応える必要がある。
ロードヒーティング事業は、頓原中学校新築の際、冬期間の子どもの安全確保のため設置された。道路構造令(※1)の勾配規定を大幅に上回り、例外規定の上限に迫る道路であり、最善の方策と思う。



通学路の急な坂

みるべきと考えるがどうか。
(※1) 道路構造令とは、道路を新設または改築する場合における道路の構造の一般的技術的基準を定めた政令

A 現場検証は公開で

町長 山崎英樹



道路改良(拡幅と曲線半径の改善)と除雪・凍結防止剤散布で安全を確保する。これにより、電気代等の維持費が節減される。
この道路専用で、出来るだけ性能の良い除雪車配置を考えている。早朝除雪の際にも凍結防止剤を散布し、通学時間前に終了する。こうしたことで緊急車両の通行も確保できる。
1月中旬から2月上旬の閉校日に検証したい。決定次第、学校・保護者などに周知する。最後に三役ともに実証に立ち会おうと答弁した。

A 広域で対応したい

町長 山崎英樹

大切な視点なので、雲南圏域での取り組みにしたい。雲南農業振興協議会へ提案し、議論する。

(※2) 生分解性マルチは、土中の微生物によって水と炭酸ガスに分解される

Q 農業廃プラ推進を

プラスチックによる海洋汚染が大きな問題になっている。そういう中、農林水産省は廃プラスチック排出規制に乗り出した。生分解性マルチ(※)の普及である。
生分解性マルチは、環境保全には有効だが、価格が高い。普及には、行政の力が必要と思う。廃プラスチックの処理に補助をしているように、生分解性マルチ導入に対しても助成制度を導入し、農家が使いやすい環境をつくることを提案する。

プラスチックによる海洋汚染が大きな問題になっている。そういう中、農林水産省は廃プラスチック排出規制に乗り出した。生分解性マルチ(※)の普及である。
生分解性マルチは、環境保全には有効だが、価格が高い。普及には、行政の力が必要と思う。廃プラスチックの処理に補助をしているように、生分解性マルチ導入に対しても助成制度を導入し、農家が使いやすい環境をつくることを提案する。

町長 山崎英樹

一般質問

12月定例会



安部 丘 議員

Q 防災計画の見直し早急に

今年の防災訓練での検討会では多くの課題が出された。そこで四ポイント質問する。

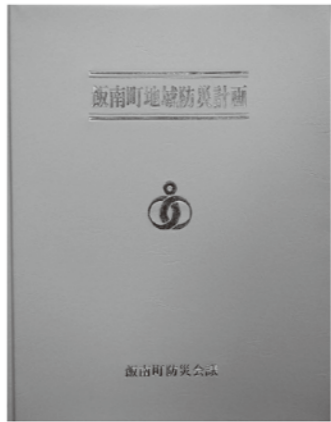
1. 一時避難場所が不適切との意見が多くあるが、早急な対応が必要。どこまで進んでいるか。
2. 自治会未加入者を地域住民に任せてしまうのは問題がある。町は、自治会未加入者を把握し、災害時の行動等を周知しておくべき。
3. ほとんどの自治体が洪水ハザードマップを公開している。本町でも平成18年の豪雨災害の経験が、防災訓練の検討会で活かされた。しかし、移住者や学生、町外出身の教職員に



防災訓練の検討会



防災対策ガイドブック



飯南町地域防災計画

はその経験がない。居住地や通学路がどうなるか想定し、避難に活かせるよう公開すべき。

4. 防災士による地元自治会への啓発には敬意を表す。町の防災士育成への取り組みも評価する。

A できるだけ早く

町長 山崎 英樹

1. 土砂災害特別警戒区域の見直し中で、これに合わせ実施する。
 2. 自治会文書等は個別に提供し周知している。
 3. 本町には水防法で指定された河川がないため未公開だが、土砂災害ハザードマップに浸水地域を記載している。
 4. 今年度、飯南町防災連絡協議会(仮称)を設立する予定だったが遅延している。
- 町としても引き続き防災訓練の検証や防災意識の啓発に努める。



Q 離職者の採用は

島根県議会で、子ども・子育て支援施策の拡充が議論されている。事業費を大幅に増額し、放課後児童クラブの利用時間延長と支援員を確保するもの。本町でも利用時間延長の希望は根強い。どのように活用する計画か。

県は、この財源を少人数学級編成の見直しに求めている。可決されれば百人近い教員・講師が影響を受けると聞く。離職される先生に、本町で活躍してもらえよう条件を整え、幅広く人材確保に動けないか。

A 実施は困難

教育長 矢飼 斉

8月に実施したアンケートでは、利用時間は概ね満足との結果だが、延長の希望も1割強あった。町としても延長への思いはあるが、フルタイム雇用に見合う大幅な処遇改善や体制整備が必要で、実施は困難。町ぐるみの子育てを目指し、引き続き町内で人材確保に努める。

一般質問

12月定例会



熊谷 兼樹 議員

Q 地域おこし協力隊定住支援を

地域おこし協力隊制度が導入され10年経過する。これまで多くの都市部在住者が協力隊員として移住し、その活動の中で成果とともに地域住民としての役割を担い貢献している。

所期の目的を果たせず、任期中途で離任した隊員もいる。その主な要因と対応、そして、協力隊員としての3年間の活動期間終了後の定住支援策を問う。

来年5人の隊員が任期終了を迎えるので、早い対応を求め



志津見の栃木さん(うぐいす茶屋)

A 隊員と連絡を密にして

町長 山崎 英樹

協力隊員が任期中途で退任する要因として、それぞれ個々の事情がある。概して言えば、募集時に想定した活動イメージと実際の活動が一致しなかったことが大きい。当初は、地域へ派遣する隊員を行政側で面接していたが、受け入れ団体との相互理解を図る形にした。そして、隊員相互の情報交換や担当職員と連絡・相談が密にできる体制を取った。

起業を希望する隊員には、起業支援補助金制度を用意している。国へは任期を3年から5年に延ばすよう要望しているが厳しいところがある。特定地域づくり事業推進法の活用を研究し定住につなげたい。



Q 新電力の受電は

電力の小売り事業は電気事業法による参入規制により、

地域電力会社に地域独占が認められていた。

2016年、全ての電力契約が自由化されたことにより、本町でも本年5月から受電の一部を新電力会社に変更している。今後の方針を問う。

A 効果あり進める

町長 山崎 英樹

本年2月、飯南町浄化センターの電力供給を一般競争入札で公募し2社が応募、京都の民間電力会社と契約を締結した。この試行的な導入により、前年同期と比較して約23万円(7%)の削減効果があった。今後活用可能な施設を分析し推進していく。

Q ジビエ(猪肉)売買を守れ

農林水産省は、CSF(豚コレラ)発生地域に野生猪肉の流通自粛を要請するとしている。本町では未発生だが、対応を考へておくべきではないか。

A 検討して頂く

町長 山崎 英樹

猪肉の需要は、これから本格化する。風評被害的なことが肉加工の委託先に出ている。今知恵はないが、状況に応じ国等関係機関を交え検討していく。



昼間の田に出没するイノシシ

決算審査報告

決算審査特別委員会

委員長 景山 登美男

審査の対象

- 平成30年度飯南町一般会計歳入歳出決算書及び関係書類
- 平成30年度飯南町国民健康保険事業外4件の特別会計歳入歳出決算書及び関係書類
- 平成30年度飯南病院事業会計歳入歳出決算書及び関係書類



りんご園を視察

審査意見

財政指標の状況は、経常収支比率が94.7%で前年度より1.1ポイント増加、地方債現在高比率が242.2%で前年度より3.3ポイント増加している。単年度の実質公債費比率は12.56%で前年度より1.33ポイント増加しており、今後も行財政運営にあたっては、限られた財源のもとで、効率的かつ効果的な事務事業の執行に努め、引き続き財政の健全化に取り組みたい。

未収金

一般会計の未収金は125万円減、国民健康保険事業特別会計は38万円減、簡易水道事業特別会計は90万円減、下水道特別会計も56万円減となっている。徴収に努力していることは認められるものの、滞納分未収金総額は2900万円である。現年度分の徴収を徹底するとともに、滞納者の実態を十分把握しながら、収納率の向上と未収金の縮減に努められたい。

繰越事業

平成30年度の翌年度繰越額は6億5400万円と大幅に増加している。早期発注とともに、適正な業務執行の徹底に努められたい。

組織及び事務事業の見直し

新規事業および業務の複雑化により、各課の組織バランスの偏重が増加している。事務分掌の見直しとともに、業務量に応じた適正な人員配置に努められたい。

指定管理料

観光交流施設経常管理費に、指定管理料以外の委託費が計上されている。指定管理者制度に則り、経常的経費を精査し、適切な管理費の算定に努められたい。

移住者の集い

飯南町への移住者は、近年40〜50人前後で推移しているが、移住者が安心して定住し、新たな生き方や働き方、地域づくり活動などへ繋げていくため、移住者同士が、「知り合い、繋がり、連携できる集い」を計画すべきである。

種子条例の制定を 求める 意見書の提出

種子法に変わる条例の制定を求める意見書を島根県知事に提出することに決した。

〔要旨〕

主要農作物種子法は昭和27年に制定され、我が国の農業、食の安全保障を担ってきたが、平成30年度末をもって廃止された。

種子法廃止により、県が行ってきた施策に法的裏付けがなくなり、今後、種子価格の高騰、地域条件に適した品種の生産・普及などが衰退する懸念がある。

島根県におかれては、今後も種子生産に中心的役割を果たし、必要な予算および人員体制を恒久的に配置する観点から、種子法に替わる条例を制定されるよう強く求める。

決算審査

討論・採決

飯南町議会議員報酬及び費用弁償支給条例の改正
飯南町特別職の職員の給与に関する条例の改正

反対討論 伊藤 好晴議員

消費増税、社会保障の後退、実質賃金の減少など、厳しさが増大する中で、議員報酬引き上げは、町民の理解が得られないので反対。
同じ理由で特別職給与改正も反対する。

令和元年度飯南町一般会計補正予算(第5号)

賛成討論 伊藤 好晴議員

一般職員の給与が含まれているので反対できない。合わせて、臨時や嘱託職員などの賃金が引き上げられるよう求める。

採決の結果

[12月定例会]

議案の採決結果は次のとおりです。

件名	結果	安部 丘	景山 登美男	高橋 英次	内藤 眞一	熊谷 兼樹	門真 二郎	瀧尻 行雄	伊藤 好晴	小野 覚
平成30年度飯南町各会計歳入歳出決算認定	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町一般会計補正予算(第3号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町みらい人材育成基金条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町定住促進賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の改正	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の改正	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町健康増進施設の設置及び管理に関する条例の改正	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
雲南広域連合規約の変更	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町一般会計補正予算(第4号)	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町簡易水道事業会計補正予算(第3号)	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町下水道事業会計補正予算(第3号)	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第3号)	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町病院事業会計補正予算(第3号)	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町議会議員の議員報酬及び費用弁償支給条例の改正	〃	○	●	○	○	○	○	○	○	○
飯南町特別職の職員の給与に関する条例の改正	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町職員の給与に関する条例の改正	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町一般会計補正予算(第5号)	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第4号)	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町簡易水道事業会計補正予算(第4号)	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町下水道事業会計補正予算(第4号)	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第4号)	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和元年度飯南町病院事業会計補正予算(第4号)	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○

[請願の採決結果]

主要農作物種子法の復活等をもとめる請願	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○
---------------------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

[12月定例会における議員提出議案採決の結果]

飯南町議会会議規則の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
種子条例の制定を求める意見書	〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○賛成 ●反対

視察研修報告

総務厚生常任委員会・教育経済常任委員会

総務厚生常任委員会 京都府南丹市

世木地域振興会

集落の教科書 作成・配布

京都府南丹市日吉町・世木地区は、4集落・298世帯・人口709人・高齢化率44.01%である。ここでは、古くより伝わる慣習・ルールを、良いこともそうでないことも全て「集落の教科書」としてまとめ、移住者や移住希望者に配っている。地域側の「これは知っ」として、移



住者側の「これは教えておいて」など282項目取り上げ、「強いルール」「ゆるいルール」「消えつつあるルール」「慣習や風習」の4つの基準に分け、イラストで分かりやすく表現している。移住者にとっては、地域のルールが細かいところまで説明してあり、生活に役立ち、コミュニケーションも取れているとのことだった。地域活動に参加し、地域と共に暮らしていくのが重要だ。この「集落の教科書」により、細かい気配りで互いの話し合いができ、相互理解が生まれ、地域も盛り上がっていくと感じた。



世木地域振興会拠点施設

京都市北区

社会福祉法人グループ「リガール」

8社会福祉法人が 共同で設立

小さな法人には、人材の確保・育成・研修や、時代が求めるサービスの実践と適切な経営管理などの課題があり、その解消を目指して設立したが、社会福祉法人グループ「リガール」である。グループ化できた要因は

1. 老朽改修や、地域展開の戦略情報共有への期待
 2. 法人二施設の規模では、人材確保と定着、地域展開などの課題（研修・開発等の専門人材の不足）
 3. これからの厳しい経営環境に向かうための機能強化
 4. 同規模の法人が共同で行うことへの安心感
 5. 社会福祉法人に求められる役割に対し、真摯に考える仲間と共同できる安心感
- 休暇等、労働条件の改善と標準化、総務機能の統合、介護用品等の共同購入、運営の共同システム化が実現した。



8法人でのグループ化成功に感心したが、飯南町では経営母体が異なるため、更なる研究が必要と感じた。その他にも、東大阪都市清掃施設組合のストーカ炉を視察した。

広大なブドウ畑



ワイン醸造施設



ブドウ畑を視察



教育経済常任委員会 福島県二本松市

6次産業化への取り組み

二本松市は、二本松市と伊達郡の東和町・安達町・岩代町が合併して誕生した。東和地区の人口は約5000人。福島第1原発事故による土壌汚染を克服しながら、地域振興に取り組んでいる。

酒飲み仲間の 夢を実現

地域の酒飲み仲間8人が夢を語り合う中で、ワイン醸造を思い立ちました。翌年3月、福島第1原発事故により、放射性物質が広範囲に拡散し、将来が全く見通せない状態になった。

「地域に元気を取り戻したい」との思いで、ブドウの苗を植えるとともに、市とワイン特区申請に向けた協議を始めた。ふくしま農家の夢ワイン(株)を興し、苗の成長を待った。社屋工場は、放棄されていた共同稚蚕飼育所の建物を自分たちの手で改装した。ワインの初醸造を行ったが、



すぐに完売した。平成26年に6次産業化整備支援事業を導入し、製造設備などの拡張を行っている。

二本松市は、耕作放棄地再生利用緊急対策事業を導入し、事業拡大を支援している。この事業のほか、市単独予算で耕作放棄地再生事業を行っており、農地の再生や土壌改良の他、種子や苗の購入経費にも助成を行っている。

本町においても、耕作放棄地の拡大が予想され、その再生や他の作物への取り組みを促すような政策が必要と感じた。

東和 季の子工房

とっわ
きのこ工房

東和地区太田の山中にある、宿泊のできる農家レストラン。代々養蚕農家だったが、生糸産業の不振からなめこの栽培に転換を図り、40年あまり周年栽培をしている。

現経営者は蚕小屋を改造し、宿泊のできるイタリアンレストランで、なめこを使った創作料理を提供している。

4世代が一緒に住み、時々の時流に合わせた事業展開により、力強く生きていく姿に感銘を受けた。多くを望まず、田舎に生きることの贅沢さを感じることができた。



なめこを使った創作料理



常任委員会報告

教育経済常任委員会

委員長 門 眞一郎



2部屋に分割する教室

令和元年度 飯南町一般会計補正予算(第4号)

【歳出】

園芸振興対策事業 37万円

鹿児島県錦江町の施設園芸視察研修に新規就農者を派遣するための旅費。計画は1泊2日、新幹線を利用。

移動時間を含めて、1泊2日では研修が不十分になり、最低2泊は必要。

効果的研修とするため、計画を改めるよう求めた。

機構集積協力金交付事業 904万円

農地中間管理機構を介した農地集積に対する協力金及び担い手集積支援金。

経営転換協力金28名分413万円と、担い手集積支援金1法人分491万円。

社会資本整備総合交付金

予算の効率的運用を図るため、事業間組み換えを行うもの。

工期を延長する事業が散見されるので、当初の工期限内に完了させるよう求めた。

公営住宅経常管理費 150万円

町営住宅の電気温水器修理費。本年12月から来年3月までの平年における修繕費を予算化するもの。

これらの電気温水器は耐用年数を過ぎており、故障してから修理するのではなく、計画的な更新を図るよう求めた。

小学校臨時管理費 122万円

令和2年4月から頓原小学校に特別支援学級を新設することに伴い、教室に間仕切りを設置し2室に分割する。

学校側の希望は、分割された教室を将来そのまま使用したいとのことであり、独立した教室に整備することが求められる。天井吊り下げ型のエアコンが間仕切りを設置する部屋の中央にあり、一方の部屋だけ使用しても全室を空調しなければならず、効率が悪い。

しっかりとした間仕切りを設置し、適切な空調設備を備えるよう改修することを求めた。



建設中の定住促進賃貸住宅(泉川)

令和元年度 飯南町一般会計補正予算(第4号)

【歳入】

ふるさと応援寄附 6000万円

11月末現在で前年度比105.4%となっており、今後も例年どおりの推移と予測されるため。

【歳出】

ふるさと応援寄附促進事業 3000万円

ふるさと応援寄附金収入が、当初予算より増収となる見込みから、返礼に要する経費が不足するため。

定住促進対策事業 362万円

赤名地内で2件の社宅整備が行われ、定住及び雇用促進条例に基づき、住宅整備助成金の申請予定があるため。

公共交通機関利用促進事業 102万円

和田医院の閉院にともない、通院の利便性を図りデマンドバスを増便する費用。

生活保護臨時管理費 123万円

制度改正に伴う生活保護システムの改修による増。

委員から、システム改修のたびに費用がかさむのであれば、システムを広域的に共有できないかとの意見があり、研究するとの回答があった。

保健衛生費 300万円

レジオネラ菌の影響による入浴客の減と、ヒートポンプ停止に伴い灯油ボイラーの使用時間増加による灯油代負担増のため、加田の湯への委託料を増額するもの。

飯南町健康増進施設の設置及び管理に関する条例の改正

飯南町健康増進施設(加田の湯)の利用料について、町内類似施設の状況を踏まえ改正を行うもの。

大人419円を550円に、小・中学生210円を275円に変更する。

全員協議会の議題

令和元年10月25日(金)

- ①飯南町職員の懲戒処分に関する指針の制定について
- ②台風19号による「コスモスまつり」の中止について
- ③「加田の湯」入浴料の見直しについて
- ④飯南町グローバル人材育成基金(仮称)の創設について
- ⑤8月29日発生豪雨災害の被害報告について

令和元年12月13日(金)

- ①土砂災害レッドゾーンの指定について
- ②令和2年度任期付職員採用試験について
- ③投票所の閉鎖時間の意向調査について
- ④F T T H工事の契約変更について
- ⑤公の施設の指定管理者の公募について
- ⑥島根県立農林大学校林業科の定員増に伴う学生寮の設置について
- ⑦道の駅の非常用発電機整備について
- ⑧総合振興計画等策定状況について
- ⑨飯南町公共施設等総合管理計画個別方針策定について
- ⑩森林資源活用林業魅力化プロジェクト事業報告について
- ⑪家屋敷課税について
- ⑫自動運転長期実証実験について



常任委員会報告

総務厚生常任委員会

委員長 高橋 英次

議会活動報告 [10月~12月]

- | | | |
|--|--|---|
| <p>10 3日 議会広報編集委員会(紙面校正作業)</p> <p>7日 決算審査特別委員会</p> <p>8日 議会広報編集委員会(紙面校正作業)</p> <p>15日 決算審査特別委員会</p> <p>16日 決算審査特別委員会</p> <p>17日 教育経済常任委員会</p> <p>19日 島根県種畜共進会(松江市宍道町)</p> <p>21日 雲南地域スポーツ交流会(奥出雲町)</p> <p>23日 決算審査特別委員会</p> <p>24日 決算審査特別委員会</p> <p>25日 全員協議会、総務厚生常任委員会
雲南市・飯南町事務組合議会定例会(雲南市)</p> <p>28日 島根県町村議会議長会全議員研修会(松江市)</p> <p>29日 決算審査特別委員会</p> | <p>11 5日 決算審査特別委員会</p> <p>11日 議会運営委員会</p> <p>12日 決算審査特別委員会</p> <p>15日 島根中央子牛共進会(松江市宍道町)</p> <p>18~20日 教育経済常任委員会視察(福島県二本松市ほか)</p> <p>21日 決算審査特別委員会</p> <p>25~27日 総務厚生常任委員会視察(京都府南丹市ほか)</p> <p>25日 島根県町村議会議長会正副議長・正副委員長研修会(松江市)</p> <p>29日 議会運営委員会(12月定例会の提出議案、日程ほかの協議)</p> | <p>12 3日 12月定例議会：本会議、町長提出議案の説明</p> <p>6日 :本会議、一般質問</p> <p>9~11日 :委員会審査</p> <p>12日 :委員会審査、予算特別委員会審査</p> <p>13日 12月定例議会：本会議、討論、採決、全員協議会</p> <p>17日 議会広報編集委員会(議会広報紙編集作業)</p> <p>23日 議会広報編集委員会(議会広報紙編集作業)</p> <p>24日 雲南広域連合議会定例会、雲南市・飯南町事務組合議会臨時会(雲南市)</p> |
|--|--|---|

地域に奉仕と貢献を

のちがた
あつのり
有限会社直方メディカルサービス
「こぶし薬局」 井上 敦礼さん

平成21年4月に開局したこぶし薬局とあじさい薬局は、身近な薬局として町民の暮らしに不可欠となっている。町民とのかわりを聞きながら、薬局をとりまく今後の動きを伺った。

この町の印象は

10年前に赴任してきましたが、九州の筑豊の出身なので、同じような山里だなあという印象でした。

この町は糖尿病が多いということ、住民の方に聞いてみると、10時と3時にお茶を飲む習慣があり、糖分の取りすぎが原因であることがわかりました。かかりつけ薬局として、生活



薬剤師の井上さん

習慣病などの予防のため、相談のできる体制を整えていきたいと思えます。

これから挑んで行きたいことは

これからの薬局は、医薬分業の推進、高齢化、在宅医療等の増加に伴い、二分化するといわれています。

一つは、患者様が入退院する際の医療機関との情報共有や、病気などに関する相談に常に対応できる薬局であり、もう一つは、専門医療機関連携薬局として高度な薬学管理機能を持つ薬局です。

この両方を目指すとともに、法を整えばテレビ電話などを活用した遠隔服薬指導にも挑戦していきたいと思っています。このために、地域に根差すことが可能な薬剤師を求めています。今後、地元の人が薬剤師と



左がこぶし薬局、奥は飯南病院

して活躍できるようにするため、インターンシップの受け入れ資格をとり、高校生が体験できる環境を作ることも検討したいと思えます。
私たちが、さらにこの地域へ貢献できるよう、ご親戚などに薬剤師がおられれば、ご紹介いただければ幸いです。
地域の皆さんに支えられ、11年目を迎えることができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。
これからも、皆さんの健康を守るために、この仕事を続けていきたいと考えています。

今月の表紙写真



「この薬はこうしてくださいね」と、こぶし薬局の薬剤師さんが一つひとつの薬の説明をするたびに、おばあちゃんは楽しそうに聞き入っていました。調剤薬局として、飯南病院にはこぶし薬局が、来島診療所にはあじさい薬局が、医師の指導のもとに住民の健康サポートをされています。笑うことや、笑顔で過ごすことは万病に効果があるともいわれています。お薬に添えられた笑顔を求めて来局される方も多いでしょう。

編集後記

新年あけましておめでとございます。

年末年始の慌ただしい中での編集作業ですが、読者にとって解りやすい紙面づくりに努めています。

議会広報はゴミ箱直行という話(噂)がある反面、誤字脱字の指摘や内容について、質問・意見を聞く機会もあり、案外読まれているのかなと感じることもあります。手に取ってもらえる広報をめざし、読者目線で作ることにさらに努力をしなければならぬと決意を新たにしています。

本年が皆様にとって、より良い年になりますように。

議会広報編集委員 熊谷 兼樹